

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04744

研究課題名（和文）学校教育と児童文化に根差した小学校語彙学習指導法の開発

研究課題名（英文）Research on Methods for Teaching Vocabulary in Elementary School, Rooted in School Education and Child Culture

研究代表者

河内 昭浩（KAWAUCHI, AKIHIRO）

群馬大学・共同教育学部・准教授

研究者番号：10625172

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではまず、小学校教科書の日本語の語彙データベースを作成した。そして、語彙の解析を行い、国語、理科、社会、算数の教科書の中に見られる重要学習語の抽出を行った。次に、小学校図書室で貸し出し頻度の高い児童図書50冊の日本語彙データベースを作成した。そして、児童図書と教科書の語彙の比較研究を行った。さらに、小学校における重要語彙の理解度調査を実施した。また、小学生新聞の語彙を調査・分析した。そして、教科書、児童図書、小学生新聞の調査データを集約し、小学生の学校生活、日常生活において必要な語彙を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、小学校教科書並びに児童図書や小学生新聞の語彙を調査・分析して、児童の学校生活、日常生活において真に必要な語彙は何かを明らかにした。その成果は、全国国語教育学会編『国語科教育学の成果と展望』（2022年、溪水社）の中の項目「国語科学習基本語彙研究の成果と課題」の中に集約されている。小学校国語科語彙研究の枠組みの中に、他教科との関わり、児童図書や小学生新聞との関わりを定置できたことは本研究の最大の成果である。

研究成果の概要（英文）：The first step of the study was to create a Japanese-language vocabulary database of elementary-school textbooks. The vocabulary was subsequently analyzed to derive important words to be learned in Japanese, science, social studies, and arithmetic. Next, a Japanese-language vocabulary database was created from 50 children's books that are frequently lent out by elementary-school libraries. The vocabulary of the children's books was then compared with that of the textbooks. Furthermore, a survey was conducted to assess elementary-school students' understanding of key vocabulary. The vocabulary of elementary-school newspapers was also surveyed and analyzed. The survey data from textbooks, children's books, and elementary-school newspapers were then collected to clarify what vocabulary is needed in elementary-school students' school life and in their everyday life.

研究分野：国語科教育学

キーワード：語彙指導 教科書 児童図書 小学生新聞

1. 研究開始当初の背景

近年の国語科学習基本語彙研究においては、「国語科学習用語」の語に代表されるように、国語科の学習に必要な語彙、あらずし、要約など、の整理が進んでいた。一方で、他教科の学習や実社会に資する語彙の研究はあまり進んでいなかった。本科学研究費の助成により、そうした他教科や実生活に資する国語科教育語彙研究が進展し、国語科教育学研究 10 年間の成果の集成であり、のちにリストで示す [図書] 1 (『国語科教育学研究の成果と展望』、共著、全国大学国語教育学会編、渓水社、執筆担当部分：第 5 章 3 節「国語科学習基本語彙研究の成果と課題」(PP. 340-347)) 上記 [図書] において、「他教科の教科書等も対象とした研究」「児童図書等の研究」という項目を立てることができた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学校教育並びに児童文化の観点から児童の周辺にある語彙を明らかにし、その学習指導を構築することにあつた。小学校各教科の教科書、児童図書、小学生新聞などの語彙を収集・分析し、児童語彙理解度調査を経て、指導すべき語彙を選定した。学年別の語彙配当表を作成するまでには至らなかったが、特に小学校低学年が読書対象である児童図書の調査や、小学校高学年の他教科の学習において必要な語彙の提示などを行うことができた。語彙力は児童の主體的・対話的で深い学びを支える内的な基盤である。児童の学びと日常生活に根差した語彙に関する本研究は、学習指導要領の目指す国語科の資質・能力の育成全般にわたる基礎的な研究である。

3. 研究の方法

まず 2015 年度使用の小学校教科書のデータベースを作成した。国語、社会、算数、理科の教科書について、各学年 1 冊ずつについてデータ化した。次に小学校図書室において貸出回数が多い 50 冊をデータベース化した。さらに 2019 年度の小学生新聞のデータを購入手、語彙が抽出できるように形態素解析を行った。

そして教科書、児童図書、小学生新聞のデータを統合し、また国立国語研究所 (2004)『分類語彙表 増補改訂版』のデータや、阪本一郎 (1958)『教育基本語彙』等のデータとも統合し、学習に必要な語彙の抽出を行った。

4. 研究成果

本研究の成果として、雑誌論文 12 件 (うち査読付 4 件、うちオープンアクセス 6 件)、学会発表 7 件、図書 1 件を発表することができた。詳細は、「主な発表論文等」に示す。

本研究の成果は前述の通り、[図書] 1 (『国語科教育学研究の成果と展望』、共著、全国大学国語教育学会編、渓水社、執筆担当部分：第 5 章 3 節「国語科学習基本語彙研究の成果と課題」(PP. 340-347)) に集約されている。ここには、本研究の成果 4 編をはじめ、研究代表者の発表論文等 9 編を収録している。

「他教科の教科書等も対象とした研究」として、「小学校教科書語彙の研究」(単著、査読無、2021 年 3 月、群馬大学共同教育学部『群馬大学教育学部共同教育学部紀要 人文・社会科学編』第 70 巻(PP. 39-49)) では、今回の科研費の助成を受けて、新たに 2015 年度使用の小学校教科書の語彙データを収集し、国語の教科書には見られないが社会生活で必要度の高い重要語を「学習語」として一覧提示した。

「児童図書等の研究」として、「小学校低学年児童周辺の語彙調査 児童図書と教科書の比較を中心に」(共同、2018 年 10 月 28 日、全国大学国語教育学会第 135 回東京ウオーターフロント大会、武蔵野大学、『国語科教育研究 研究発表要旨集』(PP. 313 - 316)) では、小学校図書室において貸出回数が多い児童図書の語彙の調査結果を報告した。現代日本語の書き言葉のデータを集約している国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」には児童図書のデータはなく、これまでにはない調査報告を行うことができた。

また、「小学生新聞の語彙と教科書の語彙」(単著、2021 年 5 月 29 日、全国大学国語教育学会第 140 回春期大会 (オンライン)、『国語科教育研究 研究発表要旨集』(PP. 203-206)) では、小学生新聞の語彙の調査報告を行った。国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」には「新聞」のデータは含まれているものの、小学生向けの「新聞」のデータは含まれておらず、これもこれまでにはない調査報告となった。

そして「小学校教科書語彙の研究 (2)」(単著、査読有、2022 年 3 月、群馬大学共同教育学部『群馬大学教育学部共同教育学部紀要 人文・社会科学編』第 71 巻(PP. 39-49)) では、これまでの教科書、児童と図書、教科書のデータを総合し、品詞別に重要基礎語を割り出して提示した。ここにおいては、小学生新聞並びに児童図書に見られ、教科書に見られない語を「学習語」とした。次にそれらの中から、国立国語研究所 (2004)『分類語彙表 増補改訂版』の中の、「抽象的關係」「人間活動 精神および行為」に属している語彙を抽出した。さらにその抽出語の中から、阪本 (1958)『教育基本語彙』並びに阪本 (1984)『新教育基本語彙』で、B ランク (小学校第 4

～第6学年) もしくはCランク(中学校)とされている語彙を抽出し、それをここでは「重要学習語」と考えることとした。このようにして抽出した「重要学習語」は157語であった。

また別に、さらに今後のつながる研究として、手書き作文と打ち込み作文を比較した語彙の研究成果を発表することができた。

「手書き作文と打ち込み作文の比較」(単著、査読有、2022年6月、解釈学会『解釈』第68巻5・6号(PP.2-11))においては、中生意見文における手書き作文と打ち込み作文の語彙の比較を行った。また手書きと打ち込みに関するアンケート結果を報告した。

また、「中学生作文における手書きと打ち込みの研究」(単著、査読無、2023年3月、群馬大学共同教育学部附属教育実践センター『群馬大学教育実践研究』第40号(PP.13-22))では、意見文と随筆における手書きと打ち込みの語彙比較を行った。

児童生徒の作文調査はこれまでも多く行われてきているが、手書きと打ち込みという観点での調査は少ない。今後の作文指導や語彙指導における重要な観点を示すことができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 河内 昭浩 | 4. 巻 68 (5・6) |
| 2. 論文標題 手書き作文と打ち込み作文の比較 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 解釈 | 6. 最初と最後の頁 2-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内 昭浩 | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 中学生作文における手書きと打ち込みの研究 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究 | 6. 最初と最後の頁 13-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 小学校教科書語彙の研究 (2) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 群馬大学教育学部共同教育学部紀要 人文・社会科学編 | 6. 最初と最後の頁 39-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 64 |
| 2. 論文標題 語彙指導のさらなる充実はどう取り組むか | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 教育科学国語教育 | 6. 最初と最後の頁 50-53 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 55 |
| 2. 論文標題 他教科とともに歩む国語科語彙指導へ 小学校高学年理科・社会を例に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 月刊国語教育研究 | 6. 最初と最後の頁 4-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 小学校教科書語彙の研究 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編 | 6. 最初と最後の頁 39-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 980 |
| 2. 論文標題 小学校国語科における語彙指導 児童図書の言葉・教科書という言葉 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 初等教育資料 | 6. 最初と最後の頁 66-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩・富澤紘美 | 4. 巻 第2号 |
| 2. 論文標題 児童図書の語彙調査 小学校低学年児童・貸出上位図書を対象に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 「国語の特質」研究会報告集 | 6. 最初と最後の頁 9-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 第53巻 |
| 2. 論文標題 児童図書の言葉 小一・貸出上位図書を対象に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 月刊国語教育研究 | 6. 最初と最後の頁 42-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 第830号 |
| 2. 論文標題 コーパスを活用した語彙指導～言葉の実態を知り、授業に生かす | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 教育科学国語教育 | 6. 最初と最後の頁 12-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 67 |
| 2. 論文標題 小学校語彙指導の研究 説明的文章の学習における語彙指導 - | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 群馬大学教育学部『群馬大学教育学部紀要人文・社会編』 | 6. 最初と最後の頁 183-192 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 著者名 河内昭浩 | 4. 巻 印刷中 |
| 2. 論文標題 児童図書の言葉 小一・貸出上位図書を対象に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本国語教育学会『月刊国語教育研究』 | 6. 最初と最後の頁 印刷中 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 河内 昭浩 |
| 2. 発表標題 中学生の作文における手書きと打ち込みの比較 |
| 3. 学会等名 解釈学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 河内昭浩 |
| 2. 発表標題 小学生新聞の語彙と教科書の語彙 |
| 3. 学会等名 全国大学国語教育学会第140回春期大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山室和也, 河内昭浩, 中村和弘, 宮城信 |
| 2. 発表標題 「国語の特質」研究の多様化 「知識及び技能」の活性化のために |
| 3. 学会等名 全国大学国語教育学会第141回春期大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 河内昭浩 |
| 2. 発表標題 小学校教科書の語彙調査 他教科に資する国語科語彙指導に向けて |
| 3. 学会等名 全国大学国語教育学会第139回秋期大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 河内昭浩 |
| 2. 発表標題 小学校各教科に資する国語科学習語彙の研究 中学年理科・社会を中心に |
| 3. 学会等名 日本教科教育学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 河内昭浩・富澤紘美 |
| 2. 発表標題 小学校低学年児童周辺の語彙調査 児童図書と教科書の比較を中心に |
| 3. 学会等名 全国大学国語教育学会第135回東京ウォーターフロント大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 河内昭浩 |
| 2. 発表標題 教科書コーパス活用による学習基本語彙の選定方法例 |
| 3. 学会等名 「鍛える国語教室研究会」第8回全道大会（空知大会） |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 全国大学国語教育学会 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 溪水社 | 5. 総ページ数 580 |
| 3. 書名 国語科教育学研究の成果と展望 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|